

平成28年度 第1回学校協議会記録

日 時：平成28年 6月 8日（水） 10時～12時
場 所：校長室

- 開 会 本協議会の成立確認 配付資料確認
- 学校長あいさつ
- 協議会委員紹介
 - 後上 鐵夫 大阪体育大学教育学部教授兼
健康福祉実践研究センター長
 - 山原 秀一 泉大津公共職業安定所
専門援助部門 統括職業指導官
 - 山本 幸永 和泉市こども部こども未来室長兼
保育幼稚園担当課長
 - 田中 耕作 和泉市池上校区会長 連合会長
 - 新井 香織 大阪府立和泉支援学校PTA元副会長
 - 藤井 彰人 大阪府立和泉支援学校PTA会長
- 事務局員紹介 校長、教頭、事務長、首席、各部主事
- 会長選出 後上委員を選出
- 会長挨拶
- 協 議
 - 【1】 学校見学 各部主事による案内
 - 【2】 学校協議会 実施要項 改正 事務長より提案
〈質問・意見等〉
 - ・大阪府立学校条例に基づいて文言等の一部修正をしたということなので、これを承認したい。第4条第4項に、会長は副会長を指名するとなっているので、副会長に新井委員を指名したい。⇒承認
 - 【3】 平成28年度学校経営計画について 校長より報告
〈質問・意見等〉
 - ・昨年度学校協議会として、大阪府教育委員会へ意見書を提出したが、少し検討してみ

ようというような話しになりつつあると聞いている。今日見学したが、雨漏りによって廊下がすべりやすくなり、子どもの安全をどう確保するのかということを見ると早急の対応が必要である。

- 子どもたちのアレルギーに関する問題について、報道されているが、個人的にはアレルギー疾患のある子どもが増えていると思う。各学校で除去食を作っているとしても、全部が追いつかない状況であるのではないか。それを防ぐには、教員の情報共有をどうするのかということであるが、ダブルチェックをすることが大事である。加えて保護者とどう協議するかということも必要であると思う。子どもにどのようなアレルギーがあるかという情報が入ってこないことには、その対応も難しい。PTA と協力して体制を整える必要があるのではないか。
- 今年 PTA では、非常用持ち出し袋を用意しており、配付予定になっている。その中には子どもたちがどんな薬を服用しているか、アレルギーがあるのか等の内容も含めて実施していこうと思っている。加えて PTA の計画の中には、和泉支援学校が避難所になった場合に、どういった対応をしなければならないのか、子どもたちがどうなるのかということも含めて安全安心な環境を整えたい。また、薬を保管するとなればその方法にも問題が出てくると思うが、そのあたりもお願いしていかざるをえないかと思う。
- 今現在、1 日分の薬は必ず保管をするべきだというふうになっているが、それは1 日経てば応援がくるという前提である。実際はそうなるかどうかかわからないので、3 日分の保管を考えなければならない。342 名分の薬を保管するとなると、全員が薬を服用しているわけではないが、かなり大変な作業となってくると思う。その辺は重要なことであるので、ぜひ協議をしていってほしい。
- 車椅子や装具をつけた子どもたちが増えている気がする。知的障がいの子どもの中には、急に動き出してしまったりして事故が起りかねない状況だと思う。各学部で、車椅子や装具を必要とする子どもたちがどのくらいいるのか。
⇒小学部は、常時ではないが、車椅子を使用している子が 1 名いる。装具については、中敷だとかコルセット使用も含めて若干名いる。
⇒中学部は、PCW を使用している子どもが 1 名、車椅子を使用している子どもが各学年 1 名以上いる。合計すると 5 名以上いる。
⇒高等部は車いす使用の生徒はいない。ただ、靴や装具使用の生徒は 2 名いる。
- そういった子どもたちに対して、周囲が気を付けるような対応をしてもらいたい。
- キャリアプランニングマトリックスについて、小、中、高と進む中で、担任の考え方によっては、視覚支援を使わなくても大丈夫ということで、使用しない教員がいたり、また保護者が使ったものは、学校でも使用してくれる教員がいたり、積極的に授業でも取り入れてくれる教員がいたりする。視覚支援は、わかっている人にも有効であるので、小、中、高と例えば HR は同じ絵を使うなど、一貫性のある対応をすれば、子どもたちも迷うことがなくなるのではと思う。また、個別の教育支援計画が、社会に出た後どういう結びつきをもっていくのか、学校にいる間だけで終わっているように感じられるので、活用されていく方法はないのかと思う。
- 視覚支援の在り方については、個別の支援計画、指導計画の有効性を高めるためには、ユニバーサルデザイン授業の確立が必要不可欠と思う。ユニバーサルデザインというテーマが掲げられている以上、視覚支援は、避けて通れないものである。視覚支援をしなくても大丈夫というのではなく、視覚支援が一番わかりやすいという実態のもと

に指導するのだから、誰もがわかる授業をするということは、教員全員が視覚支援をしなければならぬということであるので、次年度に向けて、これができるか、この意見については安心できるかと思う。もう一つ、車椅子については、使う子どもはどうしても必要な道具であるので、車椅子の保管場所を明確にし、他の子どもにもわかるようにしなければならない。ただ、人数が多く教室が狭くなっているのので、長期的な検討が必要であるのではないか。

- ・生きる力の育成のところで、「就労と能力開発校への進学をあわせて5名以上をめざす」とあるが、昨年の目標は10名であった。ただ実績が4名であったので、実績に基づいた数字となっていると思うが、今年は就職希望者が10名近くいると聞いているので、全員就職ができればと思う。
- ・「引き続き卒業後3年間の離職率を15%以内とする。」とあるが、よく言われる「7, 5, 3」中学生が7割、高校生が5割、大学生が3割、最近では高校生は下がってきて4割と言われている中で、「15%以内とする。」となっている。ハローワークでは、職場定着にもっと力を入れよということで指示が出ている。本校では定着支援について、昨年一年はされてなかったと聞いている。就職者の人数が少なかったこともあるかと思うが、これを機会にハローワークも教員と一緒に、就職後3か月、6か月たった様子を見に行くことができたらと考えている。
- ・センター的機能の強化の中で、和泉支援がインクルーシブ教育推進部を作って取り組んでいるということであるが、この秋に新しい学習指導要領が出るだろうと言われていて、小、中、高等学校において交流及び共同学習をさらに推進することがでてくる。その推進のためには、一つに居住地校交流が大きく取りざたされてくる。たんなる交流だけでなく共に学ぶことをしっかりするということが出てくると言われているので、ここに書かれている居住地校交流の充実ということにぜひ力をいれたい。新学習指導要領について入ってくる情報では、「生きる力の育成」という文言が「21世紀型能力」という言い方に変わるという試案がでてきている。和泉支援版キャリアプランニングマトリックスは、全国的にも進んだ取り組みであり、昨年は自立活動との組み合わせもされていたが、ぜひその有効活用について、全国に向けて発表していただきたい。

【4】使用教科書について 教頭より報告

〈質問・意見等〉

- ・現在、文科省の☆本を使っている子どもと付則第9条本を使っている子どもの割合はどのくらいであるか。
- ⇒1学年を7グループくらいに分けて、指導しており、☆本を使っている子どもは1グループくらいである。

【5】授業参観アンケートについて 校長より報告

〈質問・意見等〉

- ・参観した保護者の数は把握できているか。全校生徒数に対する回収率ではなく、参観した保護者に対する回収率が重要であると思う。
- ・こういうアンケートでは、8割の肯定意見があれば良いとされるが、2割の少数意見に対してどう対応するかということがこれからの課題となってくる。

○会長まとめ

平成28年度の和泉支援学校の意欲的な学校経営計画がだされているので、この実現にむけての取り組みを期待している。

○学校長お礼

○次回連絡 11月16日(水) 10:00～